

3 第2号被保険者調査

調査対象

新宿区に居住する第2号被保険者（40歳以上65歳未満） 1,500人

調査項目

備考の記号：☆…25年新設項目

25年度調査				28年度調査	
見出し	ねらい	設問番号	設問項目	備考	現時点での方向性
1.ご本人のこと	回答者の基本属性を把握する。	1～4	○性別 ○年齢 ○居住地域 ○世帯構成および世帯人数		要精査
	就労の状況や意欲を把握する。	5	○仕事の有無 ○職業継続意向		
	暮らしの状況を把握する。	6・7	○暮らし向き ○世帯の年収		
	介護の経験を把握する。	8	○高齢者の介護経験の有無 (付問：介護をしていて感じたこと) 介護をしていて感じたこと		
2.住まいのこと	現在の住まいの状況を把握する。	9・10	○居住年数 ○居住形態		要精査
3.健康状態	健康状態を把握する。	11～14	○健康に関する認識（主観的健康観） ○かかりつけ医の有無 ○歯科について		
4.日ごろの生活	地域とのつながりに関する意識を把握する。	15・16	○近所づきあいの程度 ○地域とのつながりの必要性		
5.いきがいくくりや社会参加	いきがい、興味のある地域活動やボランティア活動など参加の有無等、特技や資格を把握する。	17～21	○いきがいを感ずること ○地域活動の状況 ○興味のある地域活動等 ○地域活動等への取り組み意向 ○参加しやすい地域活動等の形態		「担い手」としての意識を調べる
6.若年性認知症	認知症に関する理解の促進や、認知症サポーターの普及・啓発を図る。	22～24	○若年性認知症の認知度 ○若年性認知症の相談先 ○若年性認知症の支援に必要なこと	☆	
7.権利擁護	成年後見制度の認知度や区の成年後見センターの認知度と利用意向を把握する。	25～27	○成年後見制度の認知度 ○成年後見制度の利用意向 ○新宿区成年後見センターの認知度		地域福祉権利擁護事業の設問に変更予定

25年度調査				備考	28年度調査
見出し	ねらい	設問番号	設問項目		現時点での方向性
8.介護や医療が必要になったときのこと	在宅で暮らし続けることの希望および在宅で暮らし続けるために必要なことを把握する。	28～30	○介護が必要になった場合どこで暮らしたいか		
			○長期療養になった場合、自宅療養をしたいか		
9.緩和医療・ケア	緩和医療・ケアの認知度や利用意向について把握する。	31～33	○在宅で暮らし続けるために必要なこと	☆	
			○緩和医療・ケアの認知度		
10.看取り	自身の最期の意向について把握する。	34～35	○緩和医療・ケアを受けたいか	☆	
			○自身で判断できなくなった時		
11.介護保険制度	保険サービスと保険料の負担についての考えを把握する。	36～37	○自身の最期をどこでむかえたいか		
			○保険サービスと保険料についての考え		
12.情報や相談	高齢者総合相談センターの認知度や機能などを知っているか把握する。	38～40	○「介護保険制度」で知っていること		
			○高齢者総合相談センターの名称の認知度		
			○高齢者総合相談センターの機能の認知度		
	福祉サービスや健康に関する情報入手手段を把握する。	41～44	○高齢者総合相談センターの場所の認知度		
			○福祉や健康に関する情報入手手段		
			○福祉に関する情報量		
			○介護が必要になった場合に望む相談体制		
			○自由意見		